

高齢者の事例検討（3）

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

事例検討会の参加者は、質問・意見を通じて少しでもレベルアップにつながる会の内容であることを望んでいると思います。その内容を充実させるために、各参加者の考え方整理が必要であり、その整理にあつての留意点を説明します。

（1）事例内容の確認

① アセスメントの実施

- ・生活歴をどう捉えるか
- ・現在の状況をどう認識するか

現在の状況になった理由を把握することが、できるのかどうかです。

- ・どこが疑問なのか
- ・どこかわかれば理解できるのか
- ・はっきり解釈できないものがないか

② 現状の認識

- ・環境
- ・疾病
- ・生活状況
- ・金銭
- ・家族等との関係
- ・地域との関係
- ・趣味等の活動
- ・時間の流れ

③ 現状の問題点

- ・何が一番問題なのか
- ・緊急性の問題があるのか
- ・将来的な問題はなにか
- ・キイになっているのは誰かまた今後誰がなるのか

④ ケアマネジャーとしての活動

- ・どういう流れでどう対応しているのかを確認する

（2）事例内容の検討

上記の内容を概ね理解し、今後のケースのあり方を深めていくことになります。

検討にあたっては、介護保険制度だけで考えるのではなく、他の制度にまで広げて考える必要があります。

- ・介護保険制度
- ・障害者制度
- ・生活保護制度
- ・医療制度
- ・日常生活自立支援制度（旧地域福祉権利擁護事業）
- ・成年後見制度（法定後見制度、任意後見制度、財産管理委任契約）
- ・地域の制度

検討の中で特に整理が必要なことは、期間の問題です。

- ・緊急性
- ・短期
- ・長期

また、ケアマネジャーとしてどこまで関わりを持つことが可能なのかも検討してください。